

新聞記事タイトル

掲載日	掲載新聞	タイトル	掲載者名
2024. 4. 8	中日新聞	災と Seeing/㊦昭和東南海地震（三重県大紀町錦）80 年前の津波 タワーが伝える/昭和東南海地震（1944 年）で津波に襲われ、64 人が犠牲となった三重県大紀町の錦地区。津波の高さは 6.5 メートルともいわれ、当時 9 歳だった吉田定士さん（89）は「生きているか死んでいるかもわからない状態で流された」と…	鷺谷 威
2024. 4. 19	日本経済新聞	愛媛・高知で震度 6 弱 プレート内断層ずれ原因/愛媛・高知両県で 17 日に震度 6 弱を観測した地震について、政府の地震調査委員会は 18 日、南海トラフ巨大地震が起きる岩板（プレート）の境界ではなく、海側のプレート内部で断層がずれたとする評価をまとめた。南海トラフ地震の発生可能性は「高まったとは言えない」とした。	鷺谷 威
2024. 4. 19	中日新聞	巨大地震 備えの契機に/南海トラフ「メカニズム異なる」/愛媛・高知で震度 6 弱/今回はプレート境界よりも深い、フィリピン海プレートの内部で発生した。…	田所敬一
2024. 4. 22	静岡新聞	伊豆半島沖地震 来年 50 年/慰霊祭区切りも記憶継承に課題/活断層「調査必要」/1974 年に南伊豆町の石廊崎沖で M6.9 の規模で発生し、同町で 30 人が犠牲となった伊豆半島沖地震から 5 月 9 日で 50 年を迎える… 「海上保安庁や国土地理院などが連携し、調査を進めるべきだ」	鈴木康弘
2024. 6. 6	信濃タイムス	御嶽山の登山者調査 メット持参率 愛知県低く 専門家「噴火思い出して」	竹脇 聡
2024. 6. 9	信濃毎日新聞	名古屋で御嶽山の体験型講座 多い愛知県民の登山者…ヘルメット着用率は低く 着用の大切さ伝える火山マイスター	竹脇 聡
2024. 6. 24	中日新聞	日本の将来のため、いま防災を考える 名古屋で能登地震を受けたシンポジウム/能登半島地震を通して防災を考えるシンポジウムが 21 日、名古屋市千種区の名古屋大減災館で開かれた。液状化被害や少子高齢化社会、地震予測など、さまざまな視点から能登半島地震を振り返り、将来の地震対策に生かそうと、大学教授ら 5 人が研究成果を報告した。	鷺谷 威
2024. 7. 9	中日新聞	御嶽山噴火 犠牲最多の愛知/ヘルメット自賛率 依然低く/気象庁「しおり」で備え発信/「ヘルメットの持参は登山者の安全意識の象徴。愛知県民の持参率が低いのは、日常的に御嶽山の噴火災害の情報や報道に振れる機会が少ないからではないか」	金 幸隆

2024. 7. 11	中日新聞	噴火の教訓ヘルメット不可欠/御嶽山 愛知の登山者着用率低く/県が啓発、県内は最高率	金 幸隆
2024. 7. 23	朝日新聞	御嶽山噴火 10 年 教訓学んで/防災へ 被害伝える展示、名古屋で/火山マイスター「登山時はヘルメット着用を」	金 幸隆 竹脇 聡
2024. 8. 2	中日新聞	噴火の仕組みや身の守り方など紹介/御嶽山 知りつくし安全登山/名大減災館で展示/名古屋大減災館（名古屋市千種区）で、10 年前の御嶽山噴火災害の被害や噴火の仕組みを伝える展示が始まった。同山の麓自治体で安全啓発や魅力発信をしている長野県認定の「御嶽山火山マイスター」によるトークイベントもある。…	竹脇 聡
2024. 8. 4	信濃毎日新聞	名古屋大減災館で 10 年前の噴火語る	竹脇 聡
2024. 8. 8	毎日新聞	「日向灘で M7～7・5 程度の地震が過去 100 年間で 5 回ほど起きている。今回のような規模の地震が発生するのは不思議ではない」と指摘。南海トラフとの関連はまだ分からないとした上で「日向灘は南海トラフの最大クラスの想定震源域の端に位置している。2000 年ごろから、日向灘のような震源域の端で M6 以上の地震が増えている。南海トラフの発生に向けてプレートが押し、力がかかっているためだ。今後このような地震は増えるだろう。家族や地域で対策をその都度見直してほしい」と警戒を呼びかけた。	田所敬一
2024. 8. 17	市民タイムス	県西部地震語り継ごう/王滝で来月公開講演会	金 幸隆
2024. 9. 13	信濃毎日新聞	専門家「経験共有し次の災害の備えに」/県西部地震について、ほぼ鉛直方向の断層が横方向にずれ、解析に基づくと地下では最大 1 メートルほど動いて発生した一と説明。	金 幸隆
2024. 9. 22	信濃毎日新聞	避難初動/登山道で戸惑い/木曽町の訓練参加者アンケート/見隠す先 見える山頂より遅く/「戸惑っている間に被災する恐れがある」と指摘。	金 幸隆
2024. 9. 25	朝日新聞	御嶽山噴火 10 年 登山者を守れ/風化懸念 居合わせた人で避難訓練/火山の監視強化 予知に高い壁/絶対安全はない事前の情報収集を	金 幸隆
2024. 9. 25	朝日新聞	「巨大地震注意」を考える/情報曖昧、備え見直す機会に/警戒のオンオフ示唆危機感奪う/学術的な議論が不十分な前提から出た情報で、危うさがあります。	鷺谷 威
2024. 9. 26	市民タイムス	御嶽山噴火災害あす 10 年/進んだ復興 教訓を胸に	竹脇 聡
2024. 9. 26	信濃毎日新聞	麓から広める火山の知見/名大の研究施設 進める調査・教育	金 幸隆
2024. 9. 26	中日新聞	御嶽山噴火 あす 10 年/安全な山 模索続く/避難 整う設備 誘導が課題/死者 58 人、行方不明者 5 人の被害	金 幸隆 竹脇 聡

		を出した 2014 年の御嶽山（長野、岐阜県境、3067 メートル）の噴火から 27 日で 10 年となる。	
2024. 9. 26	読売新聞	名大研究拠点 地元と連携/防災担う「マイスター」養成/火山を理解 登山安全に	金 幸隆 竹脇 聡
2024. 9. 27	読売新聞	火山観測 全国で強化/噴火予測 依然難しく	金 幸隆
2024. 9. 27	日経新聞	国内に 111 活火山 富士山なら損失 2.5 兆円/大噴火予兆つかめ 「山のクセ」研究 足りぬ人材	金 幸隆
2024. 12. 3	中日新聞	昭和東南海地震の教訓は 発生 80 年を前に名大でシンポ/「現在も経済優先で軟弱地盤の地域に住宅をたくさん建てている。	鷺谷 威
2024. 12. 6	中日新聞	三たび被災 現地に記録/1944 年の昭和東南海地震、1854 年の安政東海地震、1707 年の宝永地震。三重県南部の熊野市新鹿（あたしか）町には、三つの南海トラフ地震による津波の被害をそれぞれ示す碑が存在する。「同じ地域に三つの津波被害を示す碑があるのは珍しい。この地に住むのに危険があると後世の人に伝えるために建てたんですね…」	鷺谷 威
2025. 1. 17	中日新聞	「神話」再び生まぬために/阪神大震災から 30 年/「もともと日本は世界の中でも地震リスクの非常に高い場所。そのハイリスクな場所をさらに細かく色分けしている。これでは色の薄い地域が安全であるかのように受け取られかねない」	鷺谷 威